

『百人一首』の古注釈を読む

所属・小助川元太

1. 授業の基本情報・概要

日本古典文学研究は、学校教員養成課程における国語教育の国文学分野の選択科目である。本授業では、まずは古文を現代語訳できる力を身につけると同時に、古文が時代を超えて読み継がれてきたということを実感し、解釈の幅から読みの面白さを見出すことのできる力を伸ばすために、『百人一首』の古注釈の読み比べを行っている。今年度のシラバスに記載した授業の目的と目標は以下のとおりである。

【授業の目的】

本授業では競技かるたとして、また、教育現場でも古典文学入門として取り上げられることが多い『百人一首』を読解する。とくに授業では、中世から近世にかけて書かれた古注釈を読むことで、現代の解釈とは異なった享受のされ方を学ぶ。また、演習を通して、古典文学の研究方法の基礎を学ぶ。

【授業の目標】

1. 辞書を用いながら、古典文学を読むことができる。
2. 『百人一首』に関する基礎知識を身につける。
3. 作品の読解を通して、日本の古典文学に関する知識を深める。

上記の目標・目的を達成するべく、以下のような授業と評価を行った。

【授業の進め方】

1. 変体仮名で書かれたその日の『百人一首』の和歌を翻刻して口語訳する（グループ作業）
2. 和歌の古注釈をグループ別に割り当て、口語訳をする（グループ作業）
3. 完成した口語訳を発表し、その日のテーマについてディスカッションを行う。

【実際の授業内容】

- 第1回：(講義) ガイダンス（『百人一首』について、授業の進め方など）
- 第2回：(演習) 1「秋の田の...」
- 第3回：(演習) 2「春過ぎて...」

第4回：(演習) 6「鶺鴒の...」

第5回：(演習) 7「天の原...」

第6回：(演習) 19「難波かた...」

第7回：(演習) 21「今来むと...」

第8回：(演習) 30「有明の...」

第9回：(演習) 38「忘らるる...」

第10回：(演習) 44「あふことの...」

第11回：(演習) 51「かくとだに...」

第12回：(演習) 70「寂しさに...」

第13回：(演習) 72「音に聞く...」

第14回：(演習) 76「わたの原...」

第15回：(講義) まとめ・和歌の解釈の多様性と授業の教材としての可能性について

【成績評価】

課題報告（40%）、レポート（40%）及び授業に取り組む姿勢（20%）により、総合的に評価する。

2. 授業評価・授業研究の内容

授業評価については、最終授業の際に匿名のアンケートを行った。（35名）質問項目は以下のとおりである。

1. 授業に真面目に取り組んでいましたか？
2. 授業内容は理解しやすかったですか？
3. 授業で学んだ内容で、とくに興味を持ったところやおもしろかったところは？
4. 3について、どのようなところに興味やおもしろさを感じましたか？
5. 意見・要望・感想・メッセージなどがあれば、書いてください。

3. 授業評価結果

1. 授業に真面目に取り組んでいましたか？

ア 真面目に取り組んだと思う。（10名）
イ ときどき集中していなかったときもあった。（5名）

ウ あまり真面目に取り組んでいたとはいえない。（0名）

2. 授業内容は理解しやすかったですか？

ア 理解しやすかった。（10名）

イ ふつうだった。(3名)

ウ 難しかった。(2名)

3. 授業で学んだ内容で、とくに興味を持ったところやおもしろかったところは？

- 百人一首を一つ一つ読み解くことは楽しかった。
- 一つの歌に時代ごとに色々な解釈・見方があった点。
- 一つの和歌に対して様々な解釈があり、それらを一つ一つ現代語訳し、解釈の違いを分析していった点。
- 百人一首の一つ一つに様々な解釈を持った人がいたのだということを知ることができた点。
- 解釈の違いがおもしろかった。現代の感覚と比べると、その違いに驚かされた。
- 古注によって解釈がちがうところ。
- 字母への転化。
- 経厚抄や色紙和歌などの注釈を読み解くこと。
- ただ現代語訳するだけではなく、和歌を字母に直すところからする点が面白かったです。
- 歌の解釈が様々であるところ。
- 様々な解釈を読むことで、今までゲームの一つであった百人一首に文学的な側面を見いだせたこと。

4. 3について、どのようなところに興味やおもしろさを感じましたか？(以下抜粋)

- 注釈ごとに全く捉え方が異なるところ。
- それらの解釈を読むことで、自分自身の考えが深まった。
- 時代が下るにつれ、科学性(学問性)や批判的見方があらわれた点。
- 様々な解釈に対して自分の考えを出したり、それを他人と共有することで、三十一文字の和歌をあらゆる観点で勉強できたところ。
- 新しいことを知ることができたところ。
- 色々な意見・考え方で知識や見方の幅が広がったため。
- ひとつの句について解釈がいくつああって、それを比較することがおもしろいと思った。
- (変体仮名を字母に直すこと)回を追うごとに覚え、スピードが上がる。
- 注釈が一つの和歌に対していくつもあ

って、それぞれ違う読み方をしていること。

- だんだん字母に直すスピードが上がってきて、なんとなく読めるようになってきたところです。
- 年代によって解釈の内容が増えたり内容がガラッと変化したりするところが興味深かったです。
- 時代によって同じ歌でも解釈が異なるところ。また、「そういう風にもとらえることができるのか」という発見。
- 時代や注釈書によって歌の意味合いが違う風にとられている点。
- 今までは上の句と下の句を暗記するのみで、意味を味わうことがなかったが、こんな見方やあんな見方があると知り、新しい世界に触れることができたこと。

5. 意見・要望・感想・メッセージ(略)

3. 「授業時間外学習の促進」について

授業で配布をした資料のうち、その時間に担当していない古注釈の解釈をしておくように指示をした。

4. 総括

本授業が今の形になったのは8年前からであるが、毎年、取り上げる和歌やその時間に解釈させる古注釈の分量、ディスカッションのテーマなど、工夫を重ねた結果、毎回の授業で学生に一定の達成感と問題意識を持たせることができるようになってきている。アンケートの2問目「授業内容の理解のしやすさ」では、「理解しやすかった」が10人、「ふつうだった」が3人、「難しかった」が2名という結果であったが、5問目の「意見・要望・感想・メッセージ」では、「百人一首に関心が持てた」「自分で何通りもの解釈を考えられる様になりたい」「グループで協力して考える形が良かった」「色々な視点を感じられて良かった」「変体仮名が読めるようになって良かった」という記述が見られたため、学生の多くが授業内容には満足していたものと思われる。時間外学習に関わる要望として「後で見直したいので、担当箇所以外の口語訳を配布してほしい」という意見があったため、良い方法を考えたい。今後の課題としたい。